

# 早稲田大学 人間科学部 日本史 講評

## 〔総合分析〕

出題形式	マーク式
試験時間	90分
特徴・その他	「該当するものがなければカをマークせよ」のせいで、正誤問題に消去法が使えないものが多く苦しめられた。このため難問が随所に見られ、人間科学部の受験生の学習水準を考えると、合格ボーダーラインは低いと思われる。問題数もかなり多かったのではないか。

## 〔大問別講評〕

番号	出題内容	コメント	難易度
I	古代の政治	問2が難問。問5・7はやや難しいが、飛鳥池遺跡から「天皇」号の最古の木簡が発見されたことは最近話題となっており、直前期の講習でのプリントで紹介していた。早稲田入試では注意しておくべきネタであった。	やや難
II	延久の荘園整理令・比叡山焼き打ち	大問6題のうち、最も易しい問題であった。史料は2つとも過去に早稲田で出されたことのあるもので、15年分くらい全学部の過去問をやっていれば「ああこれか」と思えた。もっともそんなことができるのは、英・国ができる余裕のある生徒のみで、そうでない受験生は予備校などで習得すべきだった。	易
III	近世の寺院	問3・6の選択肢は、正誤の判別に非常に悩まされる。問題量の多さからいうと、ここに時間を取られてしまっはいけないところであった。	やや難
IV	明治時代のアジア外交	問7・10が難問。問10は「日露戦争が起こる前」で考えなければならぬ。	標準
V	近現代の日米関係	問2・4はやや難しいが、選択肢を比較することでなんとか正解したい。	やや難
VI	古代～近代の史料	問2・14が難問。問8・11ができなかった人は、早稲田の傾向をあまりに知らない証拠である。	やや難

### 【難易度の表記について】

<易> 全問正解できる問題です

<やや易> 1問を除いて、残りは正解できる問題です

<標準> 2問を除いて、残りは正解できる問題です

という具合になっています。